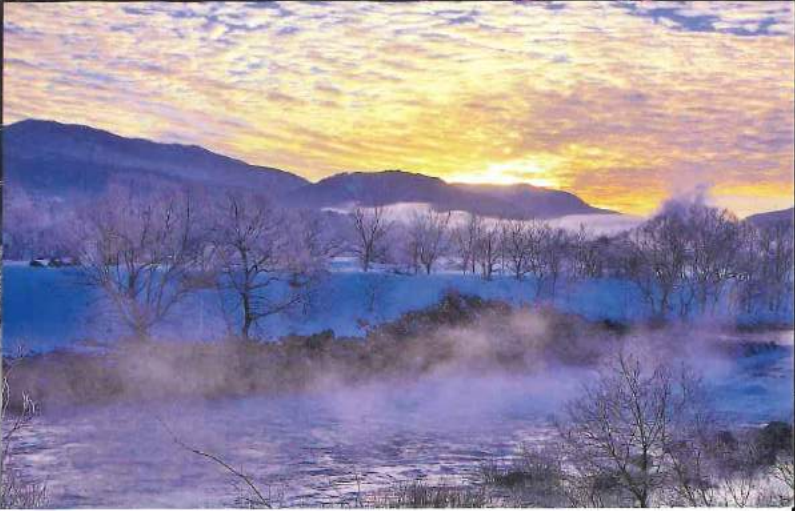


勝高同窓会報

2017.10
Vol. 27



ご挨拶



勝山高等学校長 齋藤 和 秀

同窓会会員の皆様には、各界・各分野でご活躍のこととお喜び申し上げます。

日頃から、本校の教育振興および教育環境の充実に格段のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成29年度は、新入生114名、全生徒数380名でスタートしました。生徒数が最も多かったころに比べますと現在では27%ほどの規模になり、福井県で一番小さい普通科高校です。しかし、小規模校の特色を活かし、個々の生徒への手厚い指導と機動力のある教育を行い、益々地域に信頼され期待が集まる学校になるように教職員一同で日々努力しております。

近況をお知らせしますと、進路面では、平成28年度末の卒業生132名の進路先の内訳は、国公立大学38名、私立大学51名、短期大学13名、専門学校等22名、就職は6名で、4年制大学への進学率は、67.4%で、前年より11ポイント上回っており、この5年間で最高の進学率でした。

一方、部活動面では、先の6月に行われました県春季高校総体におい

て、バドミントンの団体競技では、男子が13連覇を果たし、女子の個人種目とともに、7月末に行われたインターハイに出場しております。また、6月の北信越大会には、バドミントン部、陸上部、女子テニス部、そして柔道女子個人戦に出場し、他の運動部も県内大会において好成績をあげています。

文化部の活躍も目覚ましいものがあり、日本文化部が林英哲杯太鼓楽曲創作コンクール団体作品部門で最優秀賞を受賞しました。また、吹奏楽部が県大会で金賞を受賞し県代表として北陸吹奏楽コンクール出場を果たしました。

このように、本校の生徒は、伝統である文武両道を目指し、本来によくがんばっています。しかし、将来の地域を担う人材としてさらに育むためには、これらの能力の他に、地域に愛着と誇りをもたせる教育活動が必要になります。そのためには、学校の資産だけでは限界があり、地域やPTAそして同窓会など、外からの力が必要になります。どうか、同窓生の皆様には今後とも母校の教育活動にご支援とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

勝山高校の思い出

cafe chotto 店主 酒井和美
(第47回 平成7年卒)



cafe chotto

えちぜん鉄道永平寺口駅を降りると、旧京都電燈古市変電所の古い赤レンガの建物が目に飛び込んできます。その逆側

に進んで行くと、レトロな郵便局を改装したフレンチレストラン「la poste」、その隣に少し奥まって、奥越農家型の古民家を利用した cafe chotto が見えてきます。

勝山高校を卒業してから22年目の現在、このカフェを営む日々を過ごしています。

高校進学ときは福井方面も選べたのですが、私には勝山高校に進学したい強い理由がありました。子供の頃からあの黒い制服に憧れていたのです。駅のすぐ近くに家があるため、あらゆる高校の制服を自然に眺めて過ごしていました。幼馴染み達とはどこの制服が可愛いかなどよく話したものです。私にとって黒いブレザーの制服は断トツにかっこよく、赤いネクタイというのも大人っぽい印象でした。勝山生まれの母も常々あの制服を自慢していました、

近所の勝高出身の女性も、「制服は今でも大事にとっているのよね」と仰られていました。しかし私の入学年度から制服が新調されて、夢がかなうことはありませんでした。

制服のことは残念でしたが、また別に、大学進学はきっと県外なのだから高校時代は自然の多い勝山でのんびり過ごしたいという思いもありました。通学に乗るえちぜん鉄道の車窓は特別に美しく、当時好きだったマーラーの交響曲をウォークマンで聞きながら、上志比の田園風景や小舟渡からつづく九頭竜川の風景を眺めた毎日、春の弁天桜と鯉のぼり、サンブラザから続く紅葉葉楓の並木の坂道、長山公園でのスキー教室、図書室横の並木の緑…たっぷり蓄えた美しい思い出の記憶は、大学進学後の都会暮らしの中でとても心の力になりました。

また当時の勝山高校は若い先生方が多く、さわやかな雰囲気があり、気が合う友達も多く、楽しく過ごすことができました。当時、いつも一緒にくだらないことで笑い転げていた悪友の一人が偶然 cafe chotto 開業と同じ年に本町通りに「カフェつちや」をオープンしたことは、人生の不思議なめぐりあわせです。

それが何だか嬉しくてお休みの日にはちょくちょく勝山に帰ってしまう私です。



昔の勝山高校寮内の風景

第6回「関西勝高会」総会・懇親会



関西勝高会
会長 安居早苗
(第7回 昭和30年卒)

関西勝高会総会並びに懇親会に、多数の皆様にご出席いただきました。本当にありがとうございました。

特に、山岸勝山市長様はじめ、ご来賓の皆様には公務ご多忙の中、また遠路のところご出席を賜り、錦上添花を添えて頂き、厚くお礼を申し上げます。

関西勝高会は、高校を卒業後関西に移り住んでいる皆様、高校時代の青春の思い出や、ふるさとの思い出などを語りあえる場が必要であると考え、2年前平成27年にホテルグランピア大阪で開催いたしました。



今年も京都で開催することになりましたが、ゴール後の最初の日曜日ということから前回よりも出席者



が減少いたしました。しかし、ご出席いただいた皆様からは、「きてよかった」「なつかしい級友に会えた」「次は友達を誘って参加したい」などの声が聞かれました。勝山市や勝山高校の現況なども知ることもでき、懐かしい話にも咲く、本当に楽しいひとときを過ごすことができました。

これからも関西勝高会を存続させたという気持ちも強くなりました。そのためにもっと出席者を増やしていきたいですね。

2年後の関西勝高会開催日時、場

所、参加費など検討し、また学年別の連絡担当委員を設けるなどして、更に楽しい同窓会にすることや、参加者を増やすためにどうしたらよいか、幹事や会の皆様のご意見を聞きながら進めて参りたいと思っております。ご支援、ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、関西勝高会の開催に当たり、地元本部の阿部会長はじめ幹事の皆様、関係者の皆様にご協力を頂きまして、誠に感謝しております。ありがとうございました。



日時 平成29年5月14日(日) 午後11時より

場所 京都センチュリーホテル 出席者 70名

来賓等 勝山市市長 山岸正裕様 他2名

勝山高等学校校長 齋藤和秀様

勝山高等学校同窓会会長 阿部光郎様 他2名

福井県大阪事務所副所長 魚谷 敏様

勝高陸上部OBのみなさん 座談会



第43回卒 壺内幹治さん



第36回卒 田邊千智さん



第54回卒 長尾智子さん

現役時代の思い出

長尾 司会の長尾です。当時の部活動と思い出話を、お願いします。

田邊 私の専門は走り幅跳びでした。走り高跳びも少ししました。練習が嫌い、走るよりウエイトトレーニングが好きでした。高校時代は、北信越、国体、インターハイに出場し、インターハイ前に球技大会の練習中、バレーボールの上に乗って靱帯損傷し、そのまま臨んで一番ピリの成績を残してきた苦い思い出があります。

石倉 私は走り幅跳び、1000mと2000mをやっていました。顧問の南部先生が僕らをうまくまとめてくれて、すごく良い雰囲気練習したことが思い出です。競技での思い出は、マイルリレー(4×400mリレー)で、ほぼ練習していないから走りたくないのに、死にそうな顔で「頼むっ！」ってバトンを渡されると、つい全力で走りだし、ラスト150mで足が思うように動かなくなっ…

山岸 私は1000m、2000m、4継(4×100mリレー)と

マイルリレーが専門でした。思い出は、一年生の高校総体で「一走は390mだし、マイルリレーに出場して。」と言われて走ったら、実は400m走って、すごく辛かったことです。でも、みんな3年間やってこられて楽しかったです。

嶋田 思い出される事は、マイルリレーです。みんなで力を合わせよう！と普段出ないような力が出たり、様々なドラマが生まれたりすることが印象的でした。同じグラウンドで陸上部、サッカー部と野球部が練習していると、槍やハンマー、ボールが飛びかう危ない環境がまた楽しかった。そんな中で培った上下関係から学んだことが、自分の土台になっていると思えます。そして、ハンガリーで行われた18歳以下の世界ユース大会に参加したのも良い思い出です。

壺内 2年生まで走り幅跳び、3年生で個人のトラック種目にも出場しました。最後の高校総体は、400mで自己ベストを出し北信越大会が決まったこと、マイルリレーでのラスト100mで3人抜き、5位でゴールし、

この種目でも北信越大会行きが決まったことが嬉しかったです。

子ども達の育成と

福井国体

長尾 では、これからの子ども達に期待することや福井国体について何かありますか？

田邊 子どものはいろんな事をしてほしい。陸上に限らざるんな経験を、その中で一番得意な事を見つければ良いと思う。たまたま足が速いから陸上に執着するとかでなくても良いのかなと思います。

壺内 中学生中心の勝山アスリートクラブで監督をしています。陸上をしたいという子ども達のために、田邊先生にもお世話になり立ち上げたクラブで、6年目になります。中学生20人と小学生が毎日練習をしています。土曜日には、ふれあい公園陸上競技場で練習しています。
長尾 壺内さん一人で全員を？
壺内 親御さんが準備など手伝ってくれます。昨年、5人が全国大会に出ています。ぜひ福井国体に出場し、優勝を目指してほ

陸上はすべての基本。大事にしたい。



第57回卒 山岸祥子さん



第54回卒 石倉大志郎さん



第54回卒 嶋田忠幸さん

しいです。
長尾 他のみなさんは、今も陸上に関わっていらつしゃいますか？

山岸 私は大会の審判やアナウンスをしています。また、勤務先の小学校で放課後に陸上を教えています。最近はスポ少が盛んで、中学生になっても、そのスポーツを続けていく子どもが多いので、中学生で陸上をする子が減ってきているのが寂しいです。

田邊 そうですね。陸上の大会は他の部の大会開催時期とずれているので、季節部として出られるから、陸上をする子がさらに減っているように思います。

石倉 なるほど。得意な事と好きな事は違ったりするからかな。

嶋田 自分は運よく陸上という得意種目が見つかったのかも。子ども達には、なんでも良いから何か一つ特技を見つけ、自信に繋げて欲しいと思います。

田邊 得意なことがあるのはラッキーなことかもしれないですね。

石倉 僕は色々な競技をやってきた経験から、陸上をやっておくとすごく良いと思います。大

学時代アメフトをしていて、ラニングバックというポジションに陸上の経験がすごく有利に働きました。どの競技も走る・跳ぶ・投げるが基本なんだなと思えました。

山岸 私が目標にしていた為末選手がコーチを付けずに自分で遠征に行ったり練習メニューを考えたりし始めた時期が、ちょうど高校生の時。強くなるためにどうしたら良いかを自分で考え行動する事の大切さに気付かされました。子ども達には少しずつで良いから、自分で考え行動できるようになってほしいと思います。

嶋田 自分がだんだん強くなれたのは、二つ理由があるのかなと思います。一つは自分で考えられること、もう一つは指導者を信じて任せてOKと思える先生でした。信じられたから、自分も強くなれたのかなと思います。

長尾 私自身も顧問の先生のおかげで部活が続けられました。では最後に、これだけは話したいことはありますか？

嶋田 はい、以前の国体は、県民をあげて地元選手を応援すると

いう雰囲気はその地域ごとにあつたと思います。今は、熱が下がってきているのかなと感じます。地元開催の国体が盛り上がることで、運動したいという人が増え、健康な子どもや大人が増えて、さらに日本全国みんなが元気になる良いなっています。

長尾 皆さん、本日はありがとうございました。



御挨拶

勝山高等学校同窓会

会長 阿部 光郎

(第二十二回 昭和四十五年卒)

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝でご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

又、日頃より同窓会活動及び母校の発展に深いご理解とご支援を頂き厚く御礼申し上げます。

さて、八月十二日に開催されました平成二十九年度大同窓会総会において、全ての議案が承認され、我々理事役員、新任二名を含め十七名は引き続き同会を運営させていただく事になりました。同窓会設立後六十八年、会員数一万九千名、この歴史と伝統ある同会を維持・継続、発展させなければなりません。その為にも、会員相互の親睦と交流、又情報の発信と共有、母校に対する支援と協力が益々必要です。

特に「大同窓会」の開催、「東京勝高会」、「関西勝高会」の定



この事業を通して、勝山高校の更なる振興発展と同窓会発展の為に精一杯努力して参りますので、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

期的な開催、「勝高同窓会会報」の発行が大きな存在となっております。

しかし、時代の変化と共に、同窓会活動も変わろうとしています。特にここ数年に渡る定員割による生徒数の減少(今年の新入生一四名)ピーク時の四分の一)、又会員の高齢化による影響等、事業の見直しが必要となってきました。

今後、このような課題が残る中、色々な方々の意見を参考に最良の運営を目指す事が大切です。又、本年度も部活動に対し、援助費用として二十万円を寄付させていただきました。

平成28年度 決算報告

■収入の部

項目	平成28年度決算
入会費	660,000
同窓会会報協力金	861,000
雑入(ラベル印刷代)	2,603
銀行受取利息	21
前年度繰越金	1,488,811
合計	3,012,435

■支出の部

項目	平成27年度決算
同窓会報	
会報誌・協力金チラシ印刷費	563,760
同窓会会報誌作成経費	11,836
座談会経費	13,400
発送宛名ラベル費	30,240
発送作業業務委託費	50,000
郵送費	653,940
小計	1,323,176
大同窓会実行委員会事務費	53,237
大同窓会補てん金	78,520
同窓会名簿更新作業費	55,188
寄付金(勝山高校へ)	200,000
卒業証書筒購入費	42,768
事務委託料	120,000
事務局事務消耗品費・通信費	15,888
払込手数料	26,490
雑費	126,058
合計	2,041,325

勝高同窓会報は「福井県立勝山高等学校 ウェブサイト」で閲覧できます。

勝山高校

検索

<http://www.fki-katsuyama-h.ed.jp/>



勝山高等学校同窓会役員

役職	氏名	卒業年度	役職	氏名	卒業年度
会長	阿部 光郎	S45	常任理事	小山 康之	H6
副会長	木下 克則	S51	//	柳原 直人	H8
//	山岸登美子	S55	//	川嶋 正巳	S60
//	永井 正美	S50	//	長尾 智子	H14
会計	竹内 登	S50	//	橋本 尚美	H13
会計監査	荒井由紀夫	S45	監事・事務局	加藤先生	
//	木下 朋美	S61	//	鈴木先生	
常任理事	中山 弘之	S51	顧問	松村 龍二	S31
//	大道真知子	S51	//	山岸 正裕	S39
//	森石 義浩	H元	//	小泉信太郎	S39
//	三屋 久美	H2	//	齋藤 和秀	
//	坂 峰太郎	H4	//	北出 奈美	

第19回 勝高大同窓会



「闘う税理士、 税理士大家」に なって

鳥山昌則

(第29回 昭和52年卒)



私は勝山市猪野の鳥山家の二男として生まれ成器南小、勝中（最後の卒業生です）を経て勝高商業科1組で3年間を過ごしました。同期は勝山市議の松山信裕氏、勝山市役所の水上実喜夫氏などです。簿記を学んだことで勉強に意欲が湧き弓道部で部長になり良い仲間にも恵まれ、充実したものであったと思います。福井県立短期大学を卒業、そば屋さんで住み込みアルバイトをし、22歳で税理士試験に合格、調理師も宅地建物取引士にも合格させていただきました。私が税理士になりましたと思った動機は単純で、まず税理士が儲かると聞いたこと、そして一番儲かる商売を見つけて自分がやってみたいという不埒なものでした。

27歳で税理士登録をし、31年間、首都圏で中小企業の支援や相続対策を提案し実践してきました。税理士法人鳥山会計として70人の職員で1500件の顧問先の応援をしております。節税の限りを尽くせば当然税務署と対峙することがあります。300回以上は税務調査の立ち合いをしています。『正々堂々』と税務署と涉り合い納税者有利を勝ち取る「闘う税理士」の異名を戴くようになりました。一番儲かる商売は数々の失敗を経て不動産賃貸業だと確信を持つに至りました。今では賃貸不動産65棟、資産100億円のギガオーナーと呼ばれるようになり、節税の限りを尽くす税理士としてセミナーなどに『ひっぱりだこ』です。

東京奥越経済同友会の会長職を戴き、東京勝山会、東京勝高会にも参加させて頂いております。父母が高齢になつたこともあり、ふるさと勝山に帰る機会も増えてきました。いつ帰ってもふるさとの山川は変わらず迎えてくれます。人口減少など厳しい現実がありますが、私から見た勝山は永遠にふるさとです。魅力ある勝山づくりに微力ながら応援させて頂きたいと思っております。



平成29年度 大同窓会

平成29年8月12日(土)



実行委員長
玉木 勝
(第42回 平成2年卒)



勝山高校日本文化部の皆さんでありました。

その和太鼓は若さ溢れる迫力と一糸乱れぬ素晴らしい技による演奏で、参加者一同、瞬く間に圧倒され、また、感動の渦に巻き込まれることとなりました。

続いて、来賓の皆様のご挨拶を賜わり、懇談に移りました。懇談中には、恒例の抽選会を開催しましたが、これには、企業、個人の方々から多数の景品を提供していただきまして、ありがとうございました。

特に、勝山高校出身で、今や日本の、いや世界の「山口茜選手」のオリンピック出場記念タオルは人気を極め、当選された方は大喜びで、会場は大いに盛り上がりました。

懇親会の最後には、参加者全員で勝山高校校歌を声高らかに歌い、次年度実行委員長の万歳三唱でお開

きとなりました。校歌斉唱は、在学中の体育祭の光景が臉に思い浮かぶようでした。

大同窓会には、平成二年卒業の多くの同級生が参加してくれました。同級生との再会は、約三十年ぶりということになりました。

しかしながら、同級生との再会は、三十年の歳月を一瞬のうちに縮め、クラスメイトはもとより、高校当時には交流のなかった同級生とも、あつという間に打ち解けられる不思議な感覚がありました。

話の中心は、学校時代(小、中学校時代を含む。)の思い出話、自身や同級生の近況報告であり、大いに当



るものであります。次回も多くの卒業生の皆様にご参加いただき、盛大に開催されることを心よりお祈り申し上げます。引き続き、大同窓会開催にご尽力される役員並びに実行委員の皆様には、今後ともよろしくお願いいたします。

無事果たせることができたものと、この場をお借りして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



時を懐かしむことができました。また、同時に、頑張っている友がいるということでも、大変勇気づけられ、明日への活力ともなりました。大同窓会は、学年全クラスにとどまらず、世代を超えた交流の輪が広がるという素晴らしい機会を与えてくれ

